札幌国際芸術祭 2017

一緒につくろう芸術祭公募プロジェクト　案

2016 年 6 月 27 日

北海道教育大学岩見沢校
現代美術・平面表現研究室

1 はじめに

私たち、北海道教育大学　芸術スポーツ学科　美術文化専攻　現代美術・平面表現研究室一同は、この度の札幌国際芸術祭に応募させていただきます。

◇現代美術・平面表現研究室　過去の芸術活動

- 2014 年　由仁アートプロジェクトにてインスタレーション作品制作
- 2015 年　カウパレードニセコ２０１５にて作品制作

その内容につきましては下記の通りとします。

2 「芸術祭ってなんだ？」

まず、札幌国際芸術祭のテーマである「芸術祭ってなんだ？」の解釈と、そこから導き出した私たちの答えを述べたいと思います。

研究室で多くの話し合いを経た結果、私たちの「芸術祭」とは、日常（ケ）と非日常（ハレ）の部分を融合させた新たな価値観に基づく創作活動（＝芸術）の共有（＝祭）と考えています。

今日の芸術文化において、日本では、アカデミックな芸術を『鑑賞する』ことで美を感じることが主流であるように感じています。
しかし、今回の芸術祭において、私たちはこの企画で提案する活動を、その時・その場にいる市民の方とともに『共有する』ことで、芸術や美と私たちが暮らすこの街について一緒に考えていきたいと思っています。

3 「チ・カ・ホ　オアシス化計画」

そこで私たちが提案する活動内容は「チ・カ・ホ　オアシス化計画」です。

ヨーゼフ・ボイスの『7000 本の樫の木』を参考に、木々が描かれた未彩色の平面作品の下絵を札幌地下歩行空間に設置し、参加者の皆様に自由に彩色していただきます。

都市に自然（のモチーフ）を出現させることで、鑑賞者に北海道の広大な自然や、そこに暮らす私たちと自然の関わりを考えていただくきっかけにしてほしいと思います。

また、皆様にも制作に関わっていただくことで、『自らの手で木（自然）を表現する』という活動を経験し、自分たちの足下を見つめ直す機会としてほしいと考えます。

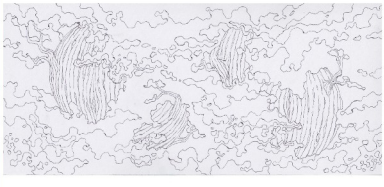
ヨーゼフ・ボイス「7000 本の樫の木」

1982 年にカッセルにて開催されたドクメンタ 7（現代美術展）にて、ヨーゼフ・ボイスが環境保護・社会彫刻の推進のために、7000 本の樫の木を植える運動を行いました。

ボイスにとって樫の木は今日、人間よりもはるかに知的なものなのだ。木の樹冠をなでる風は、苦悩する人間などを吹き飛ばしていくのだ。
樹木はこの風を感じとる。樹木は彼ら自身が悩める者たちであり、動物たちと同じく権利を剥奪されたものなのだから。
この樹木と動物たちの権利能力をこそ回復させたかった、とボイスは述べている。

–ハイナー・シュタッヘルハウス著『評伝　ヨーゼフ・ボイス』（美術出版社）より

4 制作・作品イメージ



未彩色時 予想図

線画をマスキング

彩色時 予想図

場所）札幌地下歩行空間　憩いの広場

ターゲット）一般の方々を中心にしつつ教育の一環としての集団の参加、同時に子どもから大人まで幅広い層を想定

期間）２０１７年８月７日（月）～８月１３日（日）を予定

内容）札幌地下歩行空間の壁面にて、私たちが用意した下絵を元に参加者に彩色していただきます。その際、道具に関しては全てこちらで用意したものを貸し出し、歩行者などの飛び入りの参加者を歓迎する態勢を整えます。
彩色する絵は壁面に合わせ調整しますが、縦 200cm×横 500cm 程を予定しています。壁面、床などにブルーシートなどで汚さないよう配慮を行います。

また、「オアシス化計画」というコンセプトのもと活動を行うため、絵を描く行為以外にも、

- 人工芝、ベンチなど用意
- 自然を想定した BGM やアロマの使用、効果的な照明の使用

などといった、会場全体を自然の場に空間造形することも考えています。

おわりに

＊現代美術・平面表現研究室　連絡先
・現代美術・平面表現研究室　代表　高橋美月
メール：miduki.0601.10@gmail.com